

# ④公共交通への対応の見直しについて

## 質問の目的

公共交通の活性化については、生活交通への対策、中心市街地活性化への対策の面から実施されている。

それらの実施は概ね今から10年前に決定されたものであるが、年齢構成はその時から大きく変容している。また、JRがあいの風富山鉄道になったこと、LRT南北一体化接続へ向けた取り組みがあることなどから、それらに接続するバスの仕

組みについて今一度検討が必要であると考えます。

現在の条件のまま見直す場合、地域の自治会に応分の負担が求められるが、通常の人口減少に加え、富山市の取り組み人口政策により、周辺の地域の人口減少は、より激しくなり、もはや前向きな検討をする力も失いつある。

それら全てを踏まえた上で、見直しを図るということを目指し、提起しました。

## 小さな見直しも質問

●お出かけ定期券について、雪等による遅延を考慮して利用時間の対応について改善を図ることはできないか？

●高齢化が進みその足を確保する意味で、お出かけ定期券の利用時間の延長を図ることはできないか？。



## 視察報告

自民党新風会において、健康寿命延伸都市・松本市を視察してきました。

富山は、コンパクトシティですが、松本といえは【健康寿命延伸都市】が市民の間でも定着しています。

各地域での介護予防や、企業誘致でも健康産業に絞り込んだものとするなど、市をあげての取り組みが奏功しています。

介護保険制度が揺らぐ中で、健康寿命の考えは益々重要になってきます。

## 富山市議 1 期を振り返り

政務活動費の不正問題で突然訪れた、半年の市議会議員活動でした。

新人議員ではありましたが、そういった背景から、生意気な意見も数多く主張しました。

しかし、自民党の先輩議員も、公明党、社民党、共産党、民政クラブの議員の皆さんも本当に親切に接してくれました。

現在、大変厳しい現状の中で、市政運営に取り組む森市長の見識の広さと努力には心から感服しました。

地方交付税の減少とは裏腹に市政運営費用はかさむばかりです。コンパクトシティ構想は、効率化の一面と、税収を上げる面を持つています。

何もなくても厳しい中で、鉦をふるっていることを市議は理解し、未来の市民に共に重大な責任があることをより自覚しなければならぬと痛感しました。



## 今回の質問の目的は次につなげるテーマ

前回の初当選後の質問では、金属類を積み上げている業者への指導や、学校プール問題、農業問題においては多面的機能支払いについてなど、具体的で、直ぐにでも改善を望むことを中心に行いました。

今回の3月定例会では、少しスケールを大きくし、今後自分自身が継続して関わり、少しずつでも変化を起こしていきたい問題

題を中心に行いました。

農業問題については、減反政策が廃止される等、大きく流れが変わろうとしている中で、その情報は中央からの一方通行です。また、各議員から出てくる質問も、雑誌や中央からの細切の情報を中心に生み出されたものばかりです。しかし、私が質問の打ち合わせや、質問内容を一緒に会派を組む、自民党新風会のメンバーに説明していると、メンバーの関心も高まり、自分たちも今後関わりたいから、

## 仲間を増やし、流れを変えていきます

一緒に勉強しようということになりました。

中心市街地活性化に関するものは、闇雲に称賛するものか、何が何でも否定する両極端なものが中心でした。しかしこの3月定例会では、どうやって成功させるかを中心とした質問が多く出てきていました。

公共交通の見直しについても、10年前の計画策定から、高齢化や、人口分布の変遷、公共交通そのものの変化など、

見直す切り口は多くあります。

今回の議会質問では、その質問を受け、『ならば変えましょう』とは当然にならないものばかりです。

研鑽をつみ、存在感を増し、仲間を増やし、多くの市民が納得のいく、市政の達成に向け、少しずつ変化を生んでいきたいと考えております。

自民党新風会  
江西照康

# 江西議会速報

江西照康事務所  
富山市打出409  
電話 四三五・一〇〇〇  
FAX 四三五・一一一一  
富山市議会自民党新風会  
電話 四四三・一二二四四

## 平成29年3月定例会一般質問 今回も一問一答方式 早くも、議員一期目最終編

### 質問の目的

減反を中心に行われてきた農業政策が、2018年に大転換を迎えることとなっている。

米価が安定したために転換されるのであれば問題ではないが、低迷を続けるなかでの転換は、農家にとっては大問題であ

## ①農業問題

### 2018年の「生産調整の廃止」に対する富山市の考え方について

り、年々耕作者を集中させる政策をとっていることを考えれば、そのハシゴが外されかねないような政策である。

基本的なことは変わらないとの話もあるが、前向きな話でないことは間違いない。

富山市の平地の3割以上は耕作面積であり、政策の運用次第では富山市の受ける影響は非常に大きい。

最近の議事録を見ても、農業の現状や、農家の置かれた立場について正確に認識した質問は皆無に等しい。



本質問において、順序立てをしなが

業政策に、富山市のような地方から理解者を増やし、農家が安心して農業に取り組めるような情報

## 市役所の延床全てを稲作にしても農家の売り上げは約530万円

延べ床面積は四万三千四百七十一平方メートルで約34haということになる。この富山市役所で考えた場合、延床面積全てを秋に起こし、春にまた起こし、水を入れて、整えて、苗を育て、苗を植えて、水の管理をし、除草剤を撒き、草刈りをし、稲刈りをし、乾燥し、全てを売却したとしても、総売り上げは、530万円にしかならない。

ビジネスとして考えると、かかる経費や土地と

を得た。（数字は便宜上丸くしています）

### 農家の収入の現状は？

これらの数字を聞いても、今やその実感が湧く者はほとんど居ない。そこで面積と収入の相対的な感覚が理解されるような例を提示した。

富山市役所が地上8階地下2階建てで、東館、西館、議会棟からなり、

## 都市農業振興基本法について

2018年に都市農業振興法が施行される。市街化区域に有る農地は、税率が高いものの、現在までそれらの農地を農地として所有してきた農家にとっては今回の新法の施行は期待が大きい。よって基本計画の策定には、十分な配慮を求めるため、その見解を問いました。



